

意見書案第36号

令和4年12月15日提出

令和4年12月15日可決

提出者	市議会議員	横山勝彦
	同	富田公隆
	同	堤波志芽
	同	宮崎裕紀子
	同	高橋照代
	同	窪田出
	同	新井美加
	同	三森和也
	同	小林久子

### 带状疱疹ワクチンの定期接種化を求める意見書

带状疱疹は、過去に水痘に罹患した者が加齢や過労、ストレスなどによる免疫力の低下により、体内に潜伏する带状疱疹ウイルスが再燃し発症するものである。

日本人では、50歳代から発症率が高くなり、80歳までに3人に1人が発症すると言われており、治療が長引くケースや後遺症として痛みなどの症状が残るケースもある。

带状疱疹による神経の損傷によって、その後も痛みが続く「带状疱疹後神経痛」と呼ばれる合併症に加え、角膜炎、顔面神経麻痺、難聴などを引き起こし、目や耳に障害が残ることもあり、休職や離職をせざるを得ないケースなどその後の日常生活に大きな支障を来すこともある。

带状疱疹の発症予防のためにはワクチンが有効とされているが、その費用が高額になることから接種を諦める者も少なくない。

よって、国においては、带状疱疹ワクチンの有効性を早急に確認し、予防接種法に基づく定期接種化を強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月 日

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣 あて

総務大臣

厚生労働大臣

前橋市議会議員 小曾根 英 明